

塩崎遺跡群 現地説明会 資料

一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

塩崎遺跡群の時代ごとのようす

BC.300	弥生時代前期末～中期中頃（今から約 2,300～2,200 年前） 【人が定住しはじめる】 弥生時代前期末～中期中頃の墓や円形の貯蔵穴が見つかりました。 【さまざまな墓】 壺に骨を埋葬する墓（土器棺再葬墓）や板で棺を造りつけた墓（木棺墓）など（みどころ④）。 【稲作文化の伝来】 こうした墓は、もともとこの地域にはないもので、東海地方や西日本から、この頃根付いた稲作とともに伝わったとも考えられます。		土器棺再葬墓
	弥生時代中期後半（今から約 2,100 年前） 【本格的集落の成立】 竪穴住居跡は遺跡の広い範囲に分布。 【井戸の起源】 1 基だけですが井戸跡が見つかり、この時期に井戸が伝わってきた可能性があります。		
AD.1	弥生時代後期～古墳時代初頭（今から約 1,900～1,700 年前） 【大型の竪穴住居跡】 長軸 12m の竪穴住居跡。集会場の可能性があります（みどころ②）。 【集落の大規模化と住居の建て替え】 竪穴住居跡は数多くみつっていますが、とくに新旧同じ規模の竪穴住居跡が、少しだけずれて重なったり、床を貼り替えていたりしているものも多いことが注目されます。改築や建て替えをしながら住み続けたことを示しています。		井戸跡から出土した土器
	古墳時代前期（今から約 1,700 年前） 【ヤマト王権との交流】 近畿地方でおまつりにつかわれていた高坏や小型壺と同じ形の土器が、竪穴住居跡や井戸跡から出土しています。ヤマト王権との交流を示すものと考えられます。		
	古墳時代中期（今から約 1,600 年前） 【古墳と集落】 古墳と同時期の竪穴住居跡が見つっています。住居には、炉にかわりカマドが付いていました（みどころ③）。 【シナノの最古級のウマ】 古墳の周溝からウマ骨が出土し、長野盆地でもこの時期にはウマの飼育を開始していた可能性が強くなりました。		古墳全景 （周溝からウマ骨が出土）
	古墳時代末～奈良時代（今から約 1,300～1,200 年前） 【カマドの発達】 煙道が長く伸びるカマドがある竪穴住居跡がいくつもみつっています。 【奈良時代の区画溝】 四角く区画された溝が見つっています（見どころ⑥）。		
AD.400	平安時代前期（今から約 1,100 年前） 【集落の小規模化】 一辺 3～4m 前後の小型の竪穴住居跡が遺跡の東側に散在しています。 【集落の廃絶】 9 世紀頃の洪水後の住居跡は見つかりません。		

現地説明会資料
 長野県埋蔵文化財センター
 事務所：026-293-5926
 発掘現場：080-9560-1354
 （担当者：市川）
 発行：平成 27 年 10 月 24 日

調査の概要

所在地：長野市篠ノ井塩崎

調査原因：国土交通省長野国道事務所による一般国道 18 号(坂城更埴バイパス)改築工事

調査期間：平成 27 年 4 月 14 日～11 月 30 日(予定)

調査面積：17,000 m²（うち平成 27 年度は 6,000 m²）

時代	主な遺構	主な遺物
弥生時代前期末～中期中頃	墓（土器棺再葬墓）、円形貯蔵穴墓（木棺墓・礫床木棺墓）	土器、石器、管玉、勾玉、人骨
弥生時代中期後半	竪穴住居跡、長方形土坑、井戸跡	土器、石器、管玉、ヒスイ原石
弥生時代後期～古墳時代初頭	竪穴住居跡、井戸跡、溝跡墓（方形周溝墓、土坑墓）、	土製勾玉、管玉、ガラス小玉、鉄製品
古墳時代前期	竪穴住居跡、井戸跡	土師器、管玉
古墳時代中期	竪穴住居跡、古墳	土師器、須恵器、白玉、剣形石製模造品、ウマ骨
古墳時代末～奈良時代	竪穴住居跡、溝跡	土師器、黒色土器、須恵器 円面硯、金属製品
平安時代前期	竪穴住居跡	黒色土器、須恵器、灰釉陶器

今年度検出遺構と遺物

遺跡の概要と本年度の調査の成果

塩崎遺跡群は千曲川沿いの自然堤防に立地し、長野市内でも有名な弥生時代中期～平安時代の複合集落遺跡です。長野県埋蔵文化財センターでは平成 25 年度より遺跡東端から調査を始め、本年度は遺跡の西側の調査を進めています。

これまでの調査から、本格的に遺跡に人が住み始めたのはイネが伝わってしばらくした(弥生時代前期末～中期前半)頃です。人骨を納めた土器（土器棺再葬墓）や、細長い穴に板で棺を造りつけた西日本にみられる墓(木棺墓)から、東海地方や西日本の影響を受けた弥生文化が定着したことがわかります。

弥生時代中期後半から竪穴住居跡も増え、弥生時代後期には大きな集落になりました。古墳時代は古墳と竪穴住居跡が数軒と減少してしまいましたが、古墳時代末から奈良時代にかけて再び竪穴住居跡が増えます。

塩崎遺跡群は弥生時代に集落が営まれ始めたことと、生産域と想定される後背低地をのぞむ自然堤防上に立地することから、稲作を基盤として展開した集落跡と思われます。その一端を今回ご覧いただければと思います。



見どころ⑥

奈良時代の区画溝跡発見

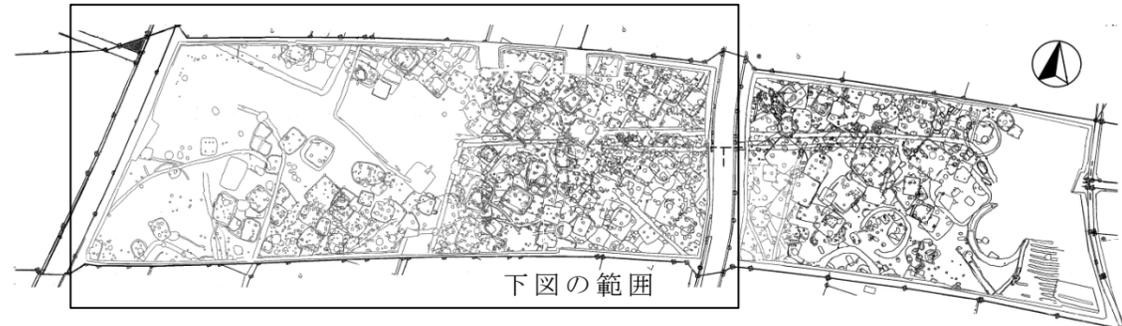
調査区の一部で溝に囲まれた場所があります。区画内に同時代の遺構はなく、どのように使われたのかはわかりません。あまり例のない施設です。



見どころ⑤

弥生時代後期～古墳時代初頭の鉄製品出土

古墳時代初頭の竪穴住居跡に埋められた墓穴から長さ 34 cm ほどの棒状鉄製品が出土しました。詳細は、レントゲン撮影やサビ取りをおこなって調べます。



下図の範囲

0 50m

塩崎遺跡群の遺構全体図

遺構種類	現在までの確認数
竪穴住居跡	451 軒
墓	85 基
井戸跡	45 基



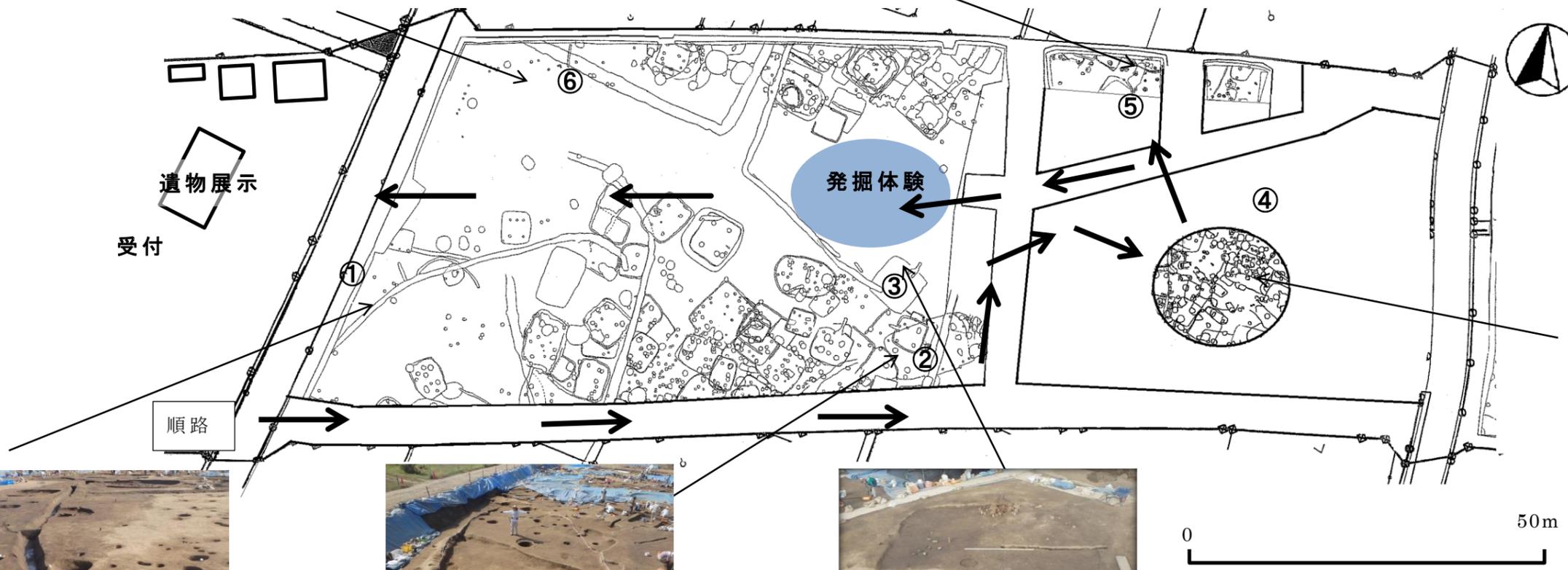
もっかんほ
木棺墓群



棺外に石を詰めた木棺墓



礫床木棺墓



遺物展示

受付

順路



見どころ①

弥生時代後期の長大な溝跡

長さ 30m、断面 V 字形の溝跡で調査区南西側を弧状に巡っています。東端は途切れていますが、ムラを区切る溝のようです。



見どころ②

特大の弥生時代後期の竪穴住居跡

長軸 11m の大型竪穴住居跡です。大勢の人が集まるような特別な竪穴住居と思われます。



見どころ③

古墳を造った人々の竪穴住居跡か

調査区東側のウマの骨が出土した古墳と同じ古墳時代中期頃のもので、古墳を造った人々と関係する竪穴住居跡と思われます。

見どころ④

弥生時代中期中ごろの木棺墓群

墓穴のなかに板で棺を造りつけた墓が 16 基集まってみつかっています。棺外に石を詰めたもの、棺床に小石を敷き詰めたもの(礫床木棺墓)もありました。長野県に西日本の墓が伝わった時期が明らかになり、塩崎遺跡群を有名にした長野県内では数少ない遺構です。